

- いま、見えてくる京急沿線の未来 File.13-

## 久里浜発“海と空”を守る世界最先端のテクノロジー

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所  
港湾空港技術研究所

## Port

京浜港、阪神港における  
大水深岸壁の  
整備など国際港湾戦略  
プロジェクトの推進

## Environment

沿岸生態系の活用  
に関する研究

## Disaster

地震、津波、高潮、  
高波災害の  
軽減や復旧

## Airport

羽田空港、関西国際空港、  
中部国際空港の  
沖合展開や  
滑走路等の整備



## Port and Airport Research Institute

## 京

急久里浜駅から京  
急バスで約5分。  
海に面して立つ港  
湾空港技術研究所（以下、  
港空研）はその名前通り、  
港湾・海岸・空港整備に関す  
る調査・研究および技術開発  
を担う、日本唯一の機関だ。

広い敷地には実験施設が  
建ち並び、さまざまな研究  
が行われている。モットー  
は、世界最高レベルであり、  
役立つ研究であること。例  
えば、津波や高潮・高波に  
よる災害の防止・減災の研  
究を行う「大規模波動地盤  
総合水路」は、長さ184  
m、深さ12m、2.5m相当の  
津波を起こせる世界最大規  
模の実験施設だ。

「東日本大震災で津波被害  
にあった防波堤を調査しま  
した。それをもとに、粘  
り強い防波堤」の実験をこ  
こで行い、より多くの避難  
時間を確保できる構造を提  
案しています」と広報担当  
の増岡孝一さん。国内外で  
災害が起こった際には、研  
究者や技術者を現地に派遣  
する活動なども行う。

ユニークなところでは、  
横浜・八景島シーパラダイ  
スを望むコンブの養殖場  
における「ブルーカーボン・  
ヨコハマコンブプロジェクト」  
（一般社団法人里海イ  
ニシアティブ）がある。コ  
ンブなど海の生態系による  
CO<sub>2</sub>の吸収（ブルーカーボン）  
は、港空研が世界に先駆け  
て明らかにしてきたが、気  
候変動抑制に関する国際的  
な枠組みを決めた「パリ協  
定」も追い風となり、新し  
い地球温暖化対策として期  
待を集めている。収穫され  
たコンブは、食用はもちろん、  
化粧品や薬品などへの  
活用を視野に入れ、持続的  
なプロジェクトを目指す。

海と空が広がる京急沿  
線——。ここから誕生する  
未来に向けたプロジェクト  
に、世界が注目している。



施設の見学ほか、干潟の生き  
物に触れることができる「一  
般公開」（海の日後の土曜日）  
や、月に1度、団体向けの見  
学会も開催。詳細はHPへ。  
<http://www.pari.go.jp>